

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
9	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Effects of sample attrition in a longitudinal study of the association between alcohol intake and all-cause mortality. 飲酒と全死亡の関係を検討する際の縦断研究における脱落者の影響について	
<b>執筆者</b>	
Thygesen LC, Johansen C, Keiding N, Giovannucci E, Grønbaek M.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Addiction.2008; 103: 1149-1159.	
<b>キーワード</b>	
attrition, missing information, alcohol intake, longitudinal study, 脱落、欠損情報、飲酒、縦断研究	
<b>要旨</b>	
<p><b>目的：</b> これまでの縦断研究により、少量または中等量飲酒する人に比べ、まったく飲まない人や多量飲酒者では死亡率が高いことが示されている。しかし脱落によって情報が欠損することによりアルコールの死亡への影響がどう変わるかは検討されていない。この研究では脱落する人の特性を調べ、飲酒と全死亡に対する関係に脱落による情報欠損がどのように影響を与えるのかについて検討する。</p> <p><b>方法：</b> Copenhagen City Heart Study の 18,974 人を対象とした。この研究では飲酒やその他の生活習慣について 28 年間に 4 回追跡しており、社会経済的因子、死亡と疾患発症についての国レベルの登録情報とリンクさせている。生活習慣や社会経済的因子との関係を検討する際はロジスティック回帰分析、飲酒と死亡の関連に脱落がどのように影響しているかを検討する際にはポアソン回帰分析を用いて検討した。</p> <p><b>結果：</b> まったく飲酒しない、多量飲酒する、現在喫煙している、活動度が低い、BMI 高値は、脱落することを目的変数としたオッズ比を上昇させた。一方で結婚している、教育歴が長い、専門職である、高収入、住居が都市部に近いほど脱落のオッズ比は低かった。脱落者では死亡率、心疾患、肺疾患、上部消化管の癌、アルコール性肝疾患の罹患率が高かった。脱落を考慮したいずれの統計手法においても、まったく飲酒しない人や多量飲酒者では死亡するリスクが高かった。</p> <p><b>結論：</b> 脱落はランダムにおこるわけではなく、また飲酒と死亡の関係は脱落を考慮に入れたいずれの統計手法においても結果は変わらなかった。</p>	